

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 38 週(9 月 15 日～ 9 月 21 日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより ～ヒトパレコウイルス 3 型の流行について～

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.41	(1.65)	→	→	↘	↓
2	RS ウイルス感染症	0.79	(0.47)	↑↑	↑↑	↑↑	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.56	(0.62)	→	↗	↘	↓
3	突発性発しん	0.56	(0.35)	↗	↑	→	↓
5	水痘	0.35	(0.24)	→	↘	↑↑	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症が今週も増加しています。8 月末(第 35 週)から 4 週連続の増加です。患者は 2 歳未満が 78%を占めています。大阪府や和歌山県でも RS ウイルス感染症が多くなっています。

今週は、北部(奈良市・郡山保健所管内)で、伝染性紅斑が多く報告されました。伝染性紅斑は両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ(ほっぺ)病」と呼ばれます。両頬が赤くなる 7~10 日くらい前に、微熱やかぜ症状などがみられ、この風邪症状の時期が最も感染力が強いとされます。両頬が赤くなる頃には、感染力はほぼ無くなっています。原因ウイルスは、ヒトパルボウイルス B19 で、飛沫または接触感染でひろがります。

また、今週はインフルエンザの報告が 1 件ありました。例年、インフルエンザの本格的な流行は新年になってからですが、平成 24 年には 9 月に集団感染事例が発生したこともあります。基本的な感染予防対策(手洗い・うがい)を心がけてください。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

朝晩が涼しくなり、咳鼻水のいわゆる風邪が増えている。季節の変わり目で喘息発作を伴う子ども目立つ。対象の感染症はあまり無いが、奈良市西部地区で RS ウイルス感染症がでてきている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は気温の変化で先週から急増。

軽度の感冒から、アデノ様の咽頭発赤・高熱例などが多い。

近幼稚園で RS の流行があり、当クリニックでも乳児の RS 陽性例があった。

他に 4 歳の胸膜炎・肺炎例があり紹介入院、原因については退院時返事待ちの状況。

感染性胃腸炎の流行も少しずつ持続。軽症経過でノロ、ロタ様ではない。

その他水痘があった。

南部地区(県立五條病院小児科)

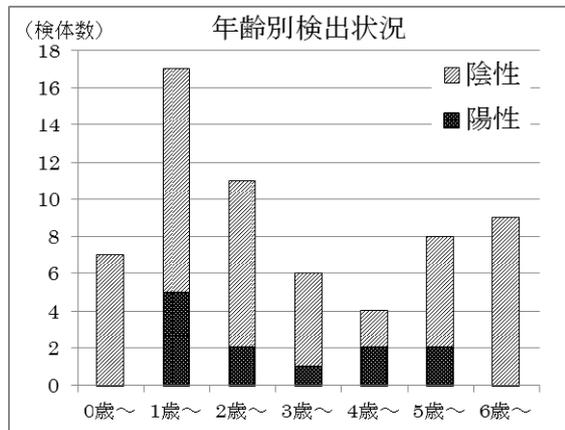
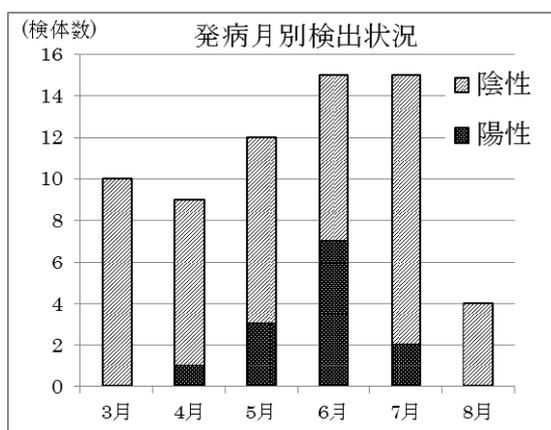
夏カゼはほとんどみられなくなった。鼻汁・咳嗽を主とする上気道感染症は増加している。RS ウイルス感染症まだ流行していない。

～ヒトパレコウイルス3型の流行について～

ヒトパレコウイルス(HPeV)は、主に小児の胃腸炎や呼吸器疾患患者から検出されるウイルスで、ピコルナウイルス科パレコウイルス属に分類されます。元々は、同科エンテロウイルス属のエコーウイルス22型・23型とされていましたが、ウイルス学的特徴から、1999年にパレコウイルス属として独立し、それぞれ HPeV1 型・2 型と命名されました。その後、2004年に3型が愛知県で、2007年には6型が新潟県で見つかるなど、今では多くの血清型/遺伝子型が報告されていますが、我が国では、1型と3型の感染例が多く、1型は胃腸炎患者から、3型は呼吸器疾患患者から多く検出される傾向があるとされています¹⁾。

奈良県では、感染症発生動向調査の病原体検査として、今年度から HPeV の検査を開始しました。まずは昨年度の検体のうち、これまでの検査で陰性と判定した検体について検査を実施し、流行状況の把握に努めているところです。

今年度に入り、HPeV 3 型の流行が報告²⁾³⁾されたことから、本県でも今年度初めから8月20日までに受け付けた検体のうち、これまでの検査で陰性と判定した検体(65検体:咽頭ぬぐい液44、便18、髄液3)について、検査を実施しました。



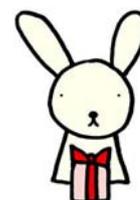
65検体中、HPeVを検出したのは、咽頭12、便1の13検体(うち1は年齢不明)で、全て HPeV 3 型でした。

発病月別に見ると、陽性検出率が高いのは6月で、年齢別に見ると検出率としては4歳代が最も高く、0歳代及び6歳以上は検出がありませんでした。全国では0歳代からの検出数が最も多く、全国とは少し異なる結果となりました。なお、性別・地域的な偏りは見られませんでした。

また、HPeV を検出した患者の診断名は手足口病 5*、ヘルパンギーナ 4*(*重複有り)、インフルエンザ様疾患 1、発疹症 5となっています。これらで発疹について特記されているものが9あり、手足を中心に全身に広がる紅疹・丘疹とされていました。大阪府でも、エンテロウイルス感染症疑い患者からのパレコウイルス検出の増加が報告⁴⁾されており、本県でも同様の傾向が見られました。

HPeV は、年によって1型と3型のどちらかが中心に流行しているようで、2011年には3型が、2012年、2013年には1型が多く検出されているようです⁵⁾。

今後は、昨年度までの流行状況を把握するとともに、下水からの HPeV の検出も試みるなど、県内の流行状況の把握・予測に努めていきたいと考えています。



1)伊藤雅、他:ヒトパレコウイルス(Human parechovirus:HPeV)感染症、[モダンメディア](#)、53巻、12号、2007

2)相澤悠太、他:新潟県におけるヒトパレコウイルス3型感染症の患者報告の急増、[IASR](#) 32:220,2014

3)宮田一平、他:生後3か月未満の乳児におけるヒトパレコウイルス感染症の発生、[IASR](#) 32:221,2014

4)中田恵子、他:エンテロウイルス感染症疑い患者からのパレコウイルス検出の増加—大阪府—、[IASR](#) 32:221-222,2014

5)パレコウイルス検出状況、分離・検出年齢、2010～2014年、[IASR](#)

(ウイルス・疫学情報担当)

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 26 年 第 38 週 9 月 15 日 ~ 21 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	11	16	11	11	2	3	
インフルエンザ	1 (0.02)				1 (0.09)			
小児科定点数	35	7	10	7	7	1	2	
RSウイルス感染症	27 (0.79)	3 (0.43)	11 (1.10)	4 (0.57)	8 (1.14)		1 (0.50)	
咽頭結膜熱	10 (0.29)	3 (0.43)	2 (0.20)	1 (0.14)	4 (0.57)			
A群溶連菌咽頭炎	19 (0.56)	8 (1.14)	8 (0.80)	2 (0.29)	1 (0.14)			
感染性胃腸炎	48 (1.41)	5 (0.71)	16 (1.60)	6 (0.86)	19 (2.71)		2 (1.00)	
水痘	12 (0.35)	1 (0.14)	4 (0.40)		7 (1.00)			
手足口病	5 (0.15)		2 (0.20)	1 (0.14)	2 (0.29)			
伝染性紅斑	8 (0.24)	2 (0.29)	6 (0.60)					
突発性発しん	19 (0.56)	9 (1.29)	4 (0.40)	5 (0.71)	1 (0.14)			
百日咳								
ヘルパンギーナ	3 (0.09)		3 (0.30)					
流行性耳下腺炎	5 (0.15)	2 (0.29)	1 (0.10)	1 (0.14)	1 (0.14)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	5 (0.56)	1 (1.00)	2 (0.67)	2 (1.00)				
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎	1 (0.17)		1 (0.50)					
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎								
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核4件(奈良市1、郡山1、葛城2)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	アメーバ赤痢1件(奈良市1) 梅毒1件(葛城1)

❖ 第 38 週のトピックス ❖

デング熱について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html

エボラ出血熱・デング熱 緊急講演 開催決定！(国立感染症研究所 一般公開)

<http://www.nih.go.jp/niid/ia/open-campus/openhouse.html>

「平成26年度新型インフルエンザの診療と対策に関する研修」を開催します(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/kouen-kensyuukai.html>

上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男																					1	5967
	女																						1
RSウイルス感染症	男	3	8	4	4	1																20	174
	女	2	2	2	1																		7
咽頭結膜熱	男					1	1	1		2												5	441
	女				1	3									1							5	359
A群溶連菌咽頭炎	男			2	1		2	1	2	1												9	685
	女			1	3		2	1	1		1	2										10	613
感染性胃腸炎	男	1	1	4	3	2	4	2		1	2	1	2	3	3							29	3018
	女		1	2	2	1	2				2		4	2	3							19	2775
水痘	男		1	3	1	1	1		2	1	1											7	529
	女				1																	5	463
手足口病	男			1				1														1	87
	女			1		2		1														4	68
伝染性紅斑	男				2	1	1	1									1					4	41
	女				1	1	1	1														4	43
突発性発しん	男	1	5	5																		11	229
	女	1	3	4																		8	195
百日咳	男																						
	女																						1
ヘルパンギーナ	男			1						1												3	656
	女														1							3	589
流行性耳下腺炎	男				1						1											2	83
	女				2						1											3	73
急性出血性結膜炎	男																					2	64
	女													2								3	86
細菌性髄膜炎	男								1													1	6
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						5
	女																						1
マイコプラズマ肺炎	男																						4
	女																						3
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						18
	女																						18

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H26 ▲ H25 □ H24 〰 過去10年平均

